

拝啓

今年は我が家の庭のゆりの花が特に豪華に咲きましたがそれも終り、公園のアジサイもそろそろ終わりごろになり、蒸し暑い初夏の頃となりました。お元気で過ごしのことと思います。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。第 63 号をお送り致します。

先月から、金田福一先生の「日々の糧 365 日」からの引用をお送りしていますが、金田先生の信仰の特徴は、

- ・イエスさまが、心のうちに住んで下さる。
- ・イエスさまが、性格も変えてくださり、次第にイエスさまに似たものにしてくださる。
- ・つねに祈り、感謝しなさい。
- ・謙遜も、イエスさまがそのようにして下さる。
- ・人を責めてはいけない。

というようなところにあると思います。

金田福一先生の信仰と、小西芳之助先生の信仰の類似性を感じます。小西先生は、つねに、「わが主イエスよ」と呼べと教えられました。この「わが主イエスよ」は、いつでも、どこでも、どんなときでもできる、もっとも簡単で、そして深い意味を持つ、祈りであり、感謝であります。

小西先生は、イエス様が心のうちに住んでくださるという言い方はされませんでした。6月24日に石館家庭集会で学びました昭和48年のコリント前書第1章1～9節の説教では、「キリストが十字架にかかり、復活して、私のために、キリストが何をなしたか。現在キリストが私のために何をなしているのか。未来、キリストが私を迎えて、復活して下さる。これを信じる。これをキリスト信者といいます。自分がよいことをしているものではありません。この恵みによって引っ張り込まれているものをクリスチャンといいます。歳月がたてばたつほど、キリストが私のためになして下さること、最後になったら、その恵みがすべてになってきます。クリスチャンとは、キリストに属するもの、キリストの一部分という意味であります。」とあり、キリストご自身が、聖霊により信者に代ってして下さるという信仰ですから、キリスト・イエスが「内住する」という金田先生の信仰と同じだと思えます。両先生の説かれるところは聖書の信仰なのですから、言い方が違って、同じであるのは当たり前なのですが。

6月4日新渡戸・南原賞の受賞式が、六本木の国際文化会館で、立派に行われました。受賞者は、岩手県の新渡戸基金の内川栄一朗さんと香川県の帝国製薬社主の赤澤庄三さんでした。受賞式の前に、式に香川県から手伝いに来て下

さった赤澤さんの秘書の羽鹿桃子さんを案内して、六本木ヒルズに行きました。5 2 階の展望台から見た東京の展望と宮城まり子さんの「ねむの木学園」の児童らによる絵の展覧会に感動しました。

それから、新渡戸・南原賞授賞式の記念品が余ったので、いつも南原先生のことでお世話になっている石井和夫さん（元東大出版会専務理事）にお届けした時、奥様が危篤であることを知り、1 週間後のお葬式のお手伝いをしました。淀橋教会で行われた立派なお葬式でした。これは小貫正さんのお葬式の手伝いをしたことから続く余慶でした。

昨年 11 月に開かれた第 3 回南原シンポジウムの記録が本になりました。南原先生の信仰（内村先生と同じ）と 5 人の友人、恩師の関係を論じています。手元にたくさん持っていますので、お送りしますので、ご興味のある箇所をお読みになってください。今年は 12 月 1 日に、「南原繁の学問と思想に学ぶ」というテーマで、第 4 回のシンポジウムを開きます。

先月の手紙に、南原繁、矢内原忠雄、新渡戸稲造、内村鑑三の 4 先生のお墓参りをしたことを書きました。そのとき一緒に行った石川信克医師から、「宮田光雄『君たちと現代』（岩波ジュニア選書）という本を読んで、シュバイツァーや岩村昇医師に続く医師になろうと発奮した」と聞き、読んでみました。中高生向けの分りやすい良い本でした。ご一読をお勧めいたします。

暑さが厳しくなってきましたので、どうぞ御身体御自愛の程、祈り申し上げます。

平成 19 年 6 月 29 日

山口周三

エンカウターの読者各位

追伸

7 月 1 日付けで、勤務先の財団法人建設業適正取引推進機構の理事長に就任することになりました。光栄なことであり、少しでも良い仕事ができますよう、お祈り下さい。